

図画工作部会（小学校）

県研究主題

豊かに感じ取る力を育てることを重視し、児童一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 大村 千代美（県央地区）

<研究主題>

色・形・イメージでつながり、主体的な創造力を育む図画工作科の授業  
— 児童のやる気を引き出し、思いを認める指導を通して —

1 提案内容

(1) テーマについて

学習指導要領の目標の中に、「感性を働かせながら」とある。それは「表現及び鑑賞の活動において児童の感覚や感じ方、表現の思いなど自分の感性を十分に働かせること」ということだと解説されている。本学級の児童は図画工作科を好きだと答えていて、どの題材に対しても意欲的に取り組むことができる。児童の中には、日本語の理解が困難であったり、語彙が少なかったりする児童がおり、そのため、自分のイメージが膨らませにくく、児童が本来もっている資質や能力が発揮されていないのではないかと考えた。

そこで、児童が全身の感覚を働かせながら色、形、イメージを感じ取り、周りに関わりながらさらに工夫していけば、自分の思いに近づき、進んで取り組むようになると考え、上記のテーマを設定した。

① 研究仮説

ア 活動の見通しをもたせることで、児童のやる気を引き出し、資質や能力が発揮されるのではないか。

イ 児童の思いを認めることによって主体的に活動し、創造力を伸ばすことができるのではないか。

② 指導方法の工夫

☆どのように児童のやる気に火を付けるか。

◎活動の見通しをもたせる

・わかりやすい課題提示・意図をもった教材提示・材料や道具、技法を絞り込む・活動時間と場の確保

☆関わり合い

◎児童と教員 ◎児童同士

☆どのように児童の思いを認めるか。

◎前向きに活動させる。

・「失敗はないよ」と安心感を与える・「一人の活動」も「複数の活動」も認める声かけで・小グループで関わり合う場の設定(道具の共有・見せ合い・鑑賞、展示の場づくり)

(2) 実践報告

① 題材名「きって、ひねって、つなげると」 A表現— (1)

② 題材目標

紙パックや紙コップを切ったりつなげたりして形を変えて楽しく活動する。

### ③ 実践から見えてきたこと

指導方法を工夫することによって、児童のやる気を引き出し、安心して創作活動を行い、主体的な創作活動ができたのではないか。

造形遊びは、表現（２）と比べて、結果だけでなく経過に重きを置き、「経過を楽しむ」「経過から学ぶ」を繰り返し、生活経験を増やしながら資質や能力を体の中に溜め、さらに次の活動が豊かになってくる。「児童の主体的な創造力を育む」ためには、児童のもっている「やる気を引き出し」「創造力を伸ばす」ことが大切であると考えている。

## 2 協議内容

- ・ 1時間目で関心・意欲の評価をしているが、3時間目のワークでもとれるのではないか？  
→ 関心・意欲はどの時間でも評価できるが、1時間目の関心・意欲が3時間につながるのではないかと考えたため。
- ・ 児童への言葉かけがとても建設的ですが、普段から気を付けていることはあるか？  
→ 言語によるコミュニケーションが不十分な児童が多い中、鑑賞では一人4分という時間を与えた。中には一言でしか表現できず、4分という時間が長く、間がもたない児童もいたが、周りで聞いていた児童が、「こんなふうにも見えるよ」と付け加えていた。周りの児童の助けを借りてなんとかしていた。時にはそういうことも大事なのではないか。
- ・ 切り方を3つにしぼったのはなぜか？  
→ 「切り落とさないように切つてごらん」と投げかけると、みんなリンゴの皮むきになって、とにかく長くすることだけに目がいってしまう。
- ・ しぼったことによって、効果的だったことは？  
→ しぼったことによって、そこから工夫が始まった。（ぴかぴかお日さまの切り方からぎざぎざにする。太さを変える。曲線にする。などの工夫）
- ・ 造形遊びは材料をそろえて、すぐに活動を始めると、何をしてよいかわからない。あらゆる技法を提示してしまうと児童の創造性はなくなってしまう。バランスが難しい。
- ・ 友だちとつなげていないとあるが、第2時はどのように授業をやられたのか？  
→ 教科書では一人1パックを切つて、友だちとつなげていたが、今回は一人でたくさんの材料を使って、たくさんの技法を試したことによって、自分の中でつなげて満足してしまった。そのため、自分の作品への思いを尊重した。
- ・ 材料について、パックの大きさは？一人あたりどのくらい使用したか？  
→ 1リットルパック。小さいと児童が加工しづらい。切ることができない。また、1リットルにすることでパックのデザインがいろいろあり、色もきれい。並べて、色にも着目させた。紙コップも大きい方がよい。今回は教員が大きいコップを準備した。また、小さいカラフルな紙コップも用意した。一人あたり、2～5パックくらい使用した。

## 3 まとめ

- 提案の授業は、やりたいように、やれるように、できるように工夫された授業だった。そして、児童の思いを認め、一人ひとりが安心感を得て、さらに創造活動が進められる授業だった。どの子も活動を楽しんでいて、自分の作品に愛着をもっていた。
- 低学年での造形遊びの充実が大事である。体全体を使って、楽しんだ経験の蓄積が高学年、さらに中学生となって新しいものを生み出す力になるのではないか。次期学習指導要領に向け、変化をおそれず、変化に対応する力を児童だけでなく、教員側も養っていかなければならない。

**<研究主題>**

感じ取ったことを手や体全体を十分に働かせて表現したり、描いたりつくったりする活動や鑑賞する活動を、【共通事項】と関連させる指導と評価の一体化

**1 提案内容****(1) テーマについて**

これまでの学習の積み重ねにより、色や形から自分なりのイメージをもち、表現活動を楽しむ児童が増えてきた。また、友だちの作品を見て、よさや面白さを味わい、感じたことを素直に伝え合う様子も見られるようになり、鑑賞活動にも意欲的に取り組んでいる。そこで、さらに今もっている力を十分に発揮し、意欲を持続させ、自分なりの鑑賞活動に取り組んで欲しいという願いから、親しみのある地元の横浜美術館と横浜近代美術館に展示されている作品を見て、話し合う鑑賞の題材に取り組むことにした。【共通事項】と関連させる指導と評価の一体化を図ることで、鑑賞の能力である「よさや美しさを感じ取ることを楽しむ」力を育むことにつなげていけるようにした。

**(2) テーマに迫る指導の工夫****① 3枚の絵との出会いの工夫**

- ・担任が気になる絵であるという声かけ
- ・地元の横浜美術館と横浜近代美術館に展示されている作品

**②場の設定**

- ・絵と個人との対話の時間の確保
- ・3人グループでの話し合い

**③共感的支援の工夫**

- ・付箋の活用
- ・話し合う人数

**④小中一貫教育の視点****(3) 指導と評価の一体化について**

【鑑賞(1)鑑賞の評価規準に盛り込むべき事項】をもとに、【題材の評価規準】、【具体的評価規準】という手順を踏み、具体的な指導と評価の計画を考えた。

**(4) 研究の実践****①題材名 『この絵、どんな絵？ 気になる絵』**

～絵の気になるところや感じたことを友達と伝え合って、作者が伝えたいメッセージは何か考えてみよう～

**②学習の主題**

親しみのある作品などのよさや美しさを感じとることを楽しむ。

**③本題材における【共通事項】のとらえ**

作品の鑑賞を通して考えたり感じたりしてとらえた、色や形、動きや奥行などの造形的な特徴などを基に、自分のイメージをもつこと。

**④題材のねらい**

3つの作品から気になるところを見付け、自分なりにそのよさや美しさを感じ取り、話し合うことでさらに感じ方を深めるようにする。

## ⑤成果

作品を見て「気になったところ」が、「作品から伝わるメッセージを探るカギ」という学習の展開の工夫により、意欲的に学習を進めることができた。

形や色などの特徴から感じたことを繋げながら、作品から伝わるメッセージを想像することができた。また、それをクラス全体で共有することで、友だちとの考え方の違いに気づき、見ることの楽しさを味わうことができた。

## 2 協議内容

### (1) 鑑賞の仕方について

- ・テーマに迫る指導の工夫として、絵と個人との対話の時間をしっかりと確保して鑑賞活動を行ったのがよかった。じっくりと見ることは、絵との対話の時間である。
- ・「3枚の絵に親しむ時間」「気になる絵を1枚選び、選んだ絵をじっくりと見る時間」「全体で思いを共有する時間」という3段階の流れで、鑑賞活動を行ったことがよかった。
- ・3人グループが横並びで鑑賞した理由は？  
→同じ目線で同じ方向から、絵を見てほしいという思いから。

### (2) 作品との出会いについて

- ・地元である横浜の美術館から作品を選んだこと、また、担任が気になる絵であるという説明が3枚の絵に親しみをもたせることにつながった。作品との出会わせ方が素晴らしかった。
- ・「気になる絵」という絵との出会いだったので、作品自体についての児童の反応は？  
→「どの時代の作品？」と、興味をもった子もいたが、「自分が気になったことを言ってごらん」という投げかけをしたので、あまり作品自体に興味を示す子は見られなかった。「気になるところが、作者が一番伝えたいところ」という思いをもっていたので、作品の背景については伝えず、児童の発想を広げることに努めた。
- ・作品の背景については伝えず、児童の思いを引き出すことに努めたことがよかった。中学生くらいになると、タイミングを計って、作品の背景を知らせることも必要になるかも・・・。
- ・絵には、大きさ、画材、材質の違いなどがあるが、どのように提示したのか？  
→画集からスキャナーしてプリントしたものと、アートカードのコピーを使用。実際の作品とは、大きさも質感も同じではなかったかもしれない。
- ・本物の作品と出会うことが一番よいが、なかなか難しい。美術館では、授業で使えるコレクション作品をデータで使うことができる取組を始めているので、授業で活用するとよい。

## 3 まとめ

- ・学習指導要領に基づいて、児童の実態を踏まえ、児童の思いや教員の願いで授業づくりをすることができる。(学習指導要領P57 指導計画の作成と内容の取扱い 学習指導要領P52第5学年第6学年の目標と内容の取扱いB鑑賞 アイ 参照)
- ・教科書作品が児童にとって身近な作品ではなかったため、年間指導計画にある「みつけたものを話してみよう」(開隆堂)をもとに、身近な地元の美術館の作品をもとに開発した題材である。学習指導要領P65(5)にも、「地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること」について示している。また、3つの作品の選定も、今までの経験から、児童が思いをもちやすい作品を選んでいる。児童主体で鑑賞していくこと、音声言語(友だちとの話し合い)と文字言語(ワークシートの活用)を活用していることなど、綿密なプロセスを経て授業構成されている提案である。